

# リサイクルに関連した総合施設をつくるべき

## 総合施設は今後協議していく



中倉 広文 議員

指定日に資源ごみを出せなかった住民を救済するため、いつでも資源ごみを出せるステーションを設置すべきである。同時に、本町のリサイクルの取り組みや歴史が一目で分かる資料館の併設や、使用可能な資源物を購入できる総合的な施設はつくれないか。

### 総合施設は協議していく

#### 町長

リサイクルについて学びながら本町の特性を理解していただくシステムをつくりたいと思う。提案については担当職員や衛生自治会とも協議していく。



廃棄された資源物の再利用

### 分別によるメリットをさらにPRすべき

#### 中倉議員

資源ごみを分別している住民自身はそのメリットを感じられていないと思う。分別という住民のひと手間が、どのように住民自身に反映しているかということをもっと広く町内外にPRすべきではないか。

### 効果的なPRを十分協議する

#### 町長

分別のメリットをわかりやすく

く住民の方々に伝えることはとても重要である。そうすることでリサイクルに積極的に取り組まれることにもつながり、同時に持続可能な取組みになると考えているので協議していく。

### 水田暗きよ排水事業の再事業化はできないか

#### 中倉議員

本町の暗きよ排水対策事業は、実施から約30年以上が経過し、排水施設の経年劣化により場所によってはその効果もなくなりつつある。水田暗きよ排水事業の再事業化はできないか。

### 可能な排水事業を検討する

#### 町長

国道から南側の水田地帯においては泥炭層で水はけが悪く、排水対策が不可欠であると思っている。しかし、町単独事業での対策は難しいため、国県の補助事業の活用も調べていく必要がある。再度検討をしていく。

### 津波避難所への誘導路を再点検すべき

#### 中倉議員

時間的猶予のない津波発生時を想定し、夜間や荒天時、また停電も考慮した避難路の点検整備などは避難者の立場でなされ

ているか。また、避難所までの誘導路で、一部標高の低い場所を通過しなければならぬ住民の不安感を少しでも解消すべきだがどうか。



児童による津波避難訓練

### 関係機関と連携し安全な誘導確保に努める

#### 町長

夜間や停電時に災害が発生した場合の避難にも十分配慮しなければならぬと考える。これまで津波避難訓練に参加された方々の意見や消防団など関係機関と連携をはかり、道路の管理なども含め避難所への安全な誘導確保に努めてきた。今後も、住民に対して災害に関する情報が十分伝達できるよう努めていく。

### 災害情報収集と周知には効果的方法を取っているか

#### 中倉議員

SNSは平時には地域での催し物や生活関連情報、また、災害時には避難所の情報や災害情報を発信および収集することができる。たとえSNSを使う手段がない方でも、活用できる近隣住民からの声掛けにより早い判断や行動が期待できると考える。既存の情報提供の手法と合わせ、今後はさらに利用度の高いアプリケーションも活用すべきだがどうか。

### 今後はラインなども活用する

#### 町長

災害が発生、または予測される場合、本町では防災行政無線とフェイスブックを活用し住民への情報発信を行っている。災害の予測や発生については、できるだけリアルタイムで詳細な情報発信が重要なので、今後は早い段階でラインなども活用できるように努める。

※SNSとは、登録された利用者同士が交流できるウェブサイトの会員制サービスのこと

※ラインとはSNSの中で、日本で一番使用されているといわれており、災害時の活用例が多いアプリケーションである

その他の質問 農業公社を設立すべき